



五中だより

令和 4 年 9 月 1 日
小平市立小平第五中学校
校長 伊藤 克行
小平市小川町 1 - 7 9 8

戦争について考える

校長 伊藤 克行

私の誕生日は 8 月 15 日の終戦記念日です。そのおかげか 8 月 15 日が終戦記念日であることを忘れたことはありません。

米軍による原爆投下から 77 年目の広島で行われた 8 月 6 日の平和記念式典など、この夏も様々な戦争に関する報道がされていました。夏休み中には戦争に関する報道を皆さんも少なからず目にしたり、耳にしたことがあったのではないのでしょうか。今年はウクライナ情勢のこともあり、いつも以上に戦争に対する世の中の関心も高まっているように感じます。

私の両親は 2 人とも戦争を経験しており、幼少期に親元を離れ疎開に出されていました。私は幼い頃から両親に戦争に関する話を聞かされていました。2 人の話に共通しているのは、幼いながらも疎開先の家族に遠慮していたことです。白いお米などほとんど食べられず、甘いお菓子などはもちろんのこと、ひもじい思いをしてもそれを口に出すことすらできなかったそうです。

実は私自身が親の立場になってから、両親から聞かされた戦争の話をよく思い起こすようになっていました。子どもの立場だけでなく親の立場から見ても、戦争の悲惨さを想像できるようになったからかもしれません。

ところが私自身が自分の子どもに戦争の話をするかという、ほとんどありません。私たち家族はトルコにいてクーデターやテロの恐怖を身近に経験しました。私の子どもたちがそれぞれに感じたり想像したりすることはあったかもしれませんが、それでも自分の力ではどうにもならない悲劇や悲惨さからはずいぶん遠くにあった気がしています。

それに比べ、自分の身近な人が味わった戦争という悲惨な実体験、避けようと思っても避けることのできない、いつ終わるか出口の見えない恐ろしい経験は、自分事として伝わるのだと感じました。戦争を知る人がどんどん少なくなっていく、多くの人が自分事として感じられなくなっていく仕方のない事実恐ろしさを感じています。

最後に今年の 8 月 6 日におこなわれた広島での平和記念式典における広島市の小学生 6 年 バルバラ・アレックスさんと山崎 鈴さんの「誓いの言葉」を紹介します。

あなたにとって、大切な人は誰ですか。

家族、友だち、先生。私たちには、大切な人がたくさんいます。

大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。そんな当たり前の日常はとても幸せです。

昭和 20 年（1945 年）8 月 6 日午前 8 時 15 分。

道に転がる死体。死体で埋め尽くされた川。「水をくれ。」「水をください。」という声。

大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。あれから 77 年経ちました。

今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。戦争は、昔のことではないのです。

自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。

本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心をもち、相手を理解しようとすることです。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。

過去に起こったことを変えることはできません。しかし、未来は創ることができます。

悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。

今度は私たちの番です。

被爆者の声を聞き、思いを想像すること。その思いをたくさんの人に伝えること。

そして、自分も周りの人も大切にし、互いに助け合うこと。

世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。

9月1日は防災の日

多くの国民が防災や災害についての知識を高めることを目的に、1960年に制定されたのが「防災の日」です。この「防災の日」を含む1週間を防災週間といい、防災に関する講演会や展示会等の開催、防災訓練の実施、防災功労者の表彰などが、国や全国の地方団体によって行われます。ちなみに「防災の日」が9月1日なのは、関東大震災が大正12（1923）年9月1日に発生したことから、9月1日ごろが暦の上で台風が多いと古くから言い伝えられている「二百十日」にあたることに由来しています。

「防災の日」は、災害時の被害を最小限にとどめるために日頃からできることを確認しよう、という防災啓発運動の日です。年に一度のこの機会に、改めて災害時の行動や家族内での決めごとを確認しておきましょう。

引き渡し訓練

本日、大地震（震度5弱以上）発生時の引き渡し訓練を実施しました。多数の保護者の方々にご協力をいただきありがとうございました。訓練は各教室廊下での引き渡しでしたが、実際に震度5弱以上の地震が発生した場合には、生徒は校庭に避難しているケースも考えられます。引き取り者の方は学校のホームページやスクールメールシステムで最新の情報をご確認の上、臨機応変に対応していただけると助かります。また、実際には引き取り者へ引き渡すまで、生徒は学校で待機となることも合わせてご承知おきください。

知っていますか？大震災時の避難場所

小平市では「〇〇地域の方は、△△避難所」といった、避難所の割り振りは行っていません。避難が必要になった際にどこの避難場所等に避難すればいいのか、「小平市防災マップ」等を参考に各家庭であらかじめ確認しておきましょう。

いつとき避難場所

いつとき避難場所は、地震が発生し火災等の危険があり、このままでは自分に危険が及ぶと判断した場合に公的な避難指示、または救護・救助を受けるために、一時的に避難し状況を把握できる場所です。

学区域では⇒ 五中、一小、十二小、上宿小、小平西高校、白梅学園グラウンド、創価学園第1グラウンド、中島町公園

広域避難場所

広域避難場所は、火災等が拡大し、いつとき避難場所では危険であると判断される場合に輻射熱や煙を回避し、安全を確保できる場所です。 **学区域では⇒ 中央公園**

避難所

避難所は、住居等を喪失するなど引き続き救援・救助を必要とされる場合に応急的な食料の配布等の保護を受けられる場所です。 **学区域では⇒ 五中、一小、十二小、総合体育館、小川公民館、上宿公民館**

福祉避難所

福祉避難所は、要配慮者（高齢者、障がい者、難病患者、妊産婦、乳幼児等）の方々が、状況に応じた医療や介護等の必要な支援を受けられる場所です。 **学区域では⇒ 小川町一丁目・上水新町・中島各地域センター、けやきの郷 など**

* 詳しくは小平市のホームページをご確認ください。